

プリオン専門調査会における調査審議の経緯

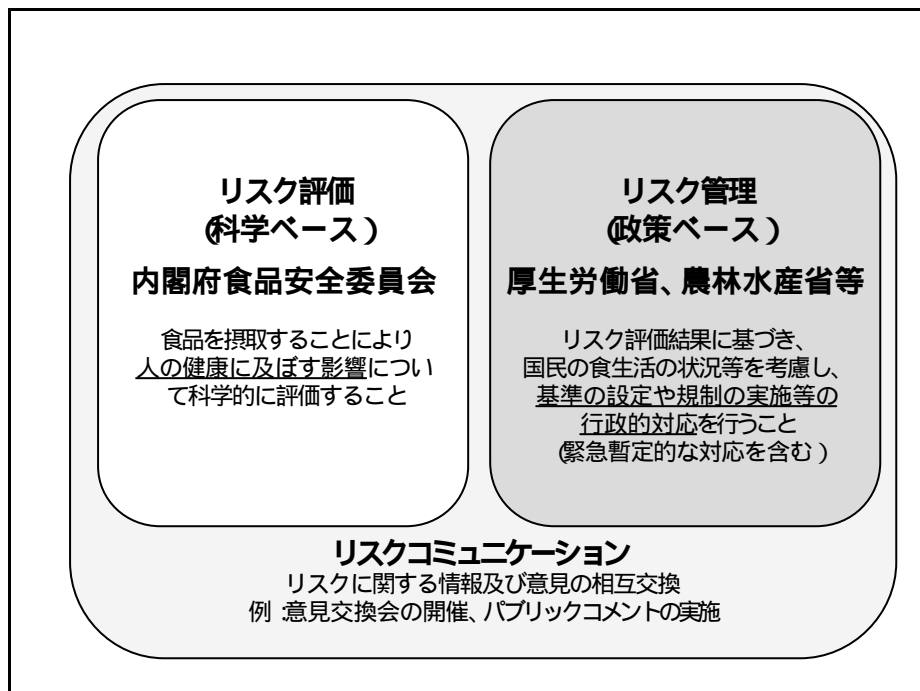
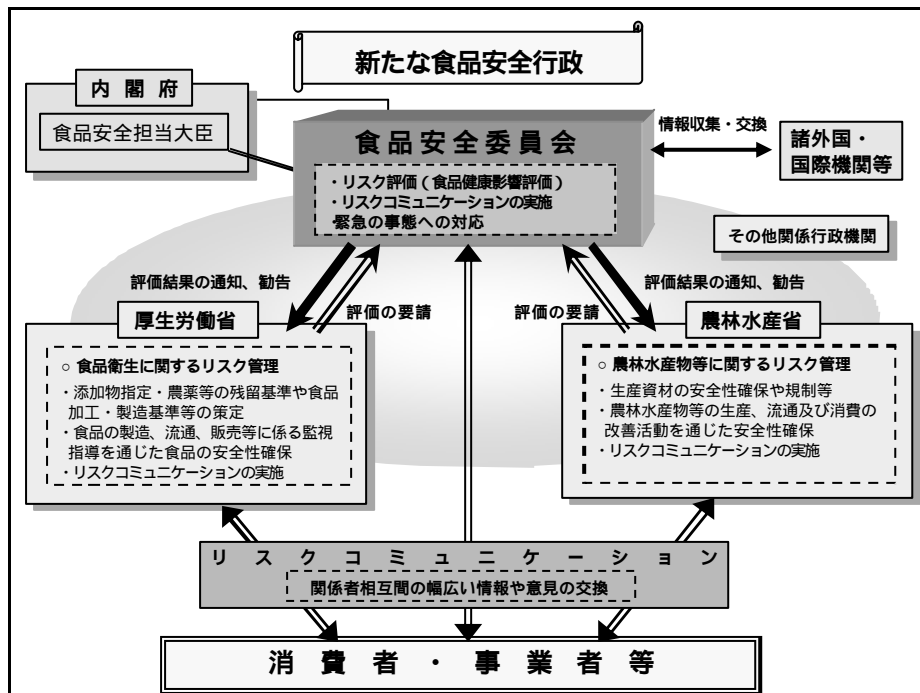
2004年 8月

食品安全委員会プリオン専門調査会

座長 吉 川 泰 弘

食品安全委員会プリオン専門調査会 専門委員 12名

座長	吉川 泰弘	東京大学大学院農学生命科学研究科教授
座長代理	金子 清俊	国立精神・神経センター神経研究所疾病研究第7部長
	小野寺 節	東京大学大学院農学生命科学研究科教授
	甲斐 諭	九州大学大学院農学研究院教授
	甲斐 知恵子	東京大学医科学研究所実験動物研究施設教授
	北本 哲之	東北大学大学院医学系研究科学専攻教授
	佐多 徹太郎	国立感染症研究所感染病理部長
	品川 森一	(独)農業・生物系特定産業技術研究機構動物衛生研究所 プリオン病研究センター長
	堀内 基広	北海道大学大学院獣医学研究科プリオン病講座教授
	山内 一也	(財)日本生物科学研究所主任研究員
	山本 茂貴	国立医薬品食品衛生研究所食品衛生管理部長
	横山 隆	(独)農業・生物系特定産業技術研究機構動物衛生研究所 プリオン病研究センター研究チーム長



第 1回プリオン専門調査会会合 平成15年 8月 29日

- 日本の B S E 問題全般について議論することが重要
- 厚生労働省から意見を求められた「伝達性海綿状脳症に関する牛せき柱を含む食品等」の調査審議

・背根神経節のリスクについては脊髄と同程度であると考えられる。
・背根神経節を含むせき柱については特定危険部位に相当する対応を講じることが適当

等

第 2回プリオン専門調査会会合 平成15年10月7日

- 農林水産省から意見を求められた「アルカリ処理をした液状の肉骨粉等の肥料利用にすいて」の調査審議

肉かす、ゼラチン・ゼラチン分解液を原料としてアルカリ処理された在庫及び今後製造される液状肥料については、肥料として利用することについての食品健康影響については無視できる程度

等

第 3回プリオン専門調査会会合 平成 15年11月27日

- 農林水産省から意見を求められた「BSE発生国からの牛受精卵の輸入」の調査審議

国際受精卵移植学会の勧告に従って採取・取り扱われた牛受精卵によるBSEのヒトへの食品健康影響については無視できると考える

- 農林水産省から意見を求められた「豚由来たん白質等の飼料への利用について」の調査審議

→ 情報を収集し、再度審議することとする。

第 4回プリオン専門調査会会合 平成16年2月3日

- BSE全般について議論を深めていくことを確認
- 米国におけるBSE発生に伴う海外調査及び日米会合の状況について報告

第 5回プリオン専門調査会会合 平成16年2月20日

- 米国のBSEに係る措置に関する国際調査団の団長を務めたキム博士を招き、米国のBSE対策について意見交換及び議論

第 6回プリオン専門調査会会合 平成16年3月3日

- 英国海綿状脳症諮問機関 (SEAC)の委員長であるピータースミス博士を招き、英国におけるBSE及び変異型クロイツフェルト・ヤコブ病 (CJD)の状況について意見交換及び議論。

第 7回プリオン専門調査会会合 平成16年3月26日

- 農林水産省から意見を求められた 豚由来たん白質等の飼料利用について」の調査審議
- 第 4 回会合で確認すべきとされた米国 B S E 問題に関する情報収集の状況について報告。

第 8回プリオン専門調査会会合 平成16年4月22日

- 農林水産省から意見を求められた 豚由来たん白質等の飼料利用について」の調査審議
- 我が国の B S E 問題全般について議論を深めることとし、我が国における 2001年の B S E 発生時からの経緯及び対応について説明

第 9回プリオン専門調査会会合 平成16年5月14日

- 欧州委員会 科学運営委員会 (SSC)の役割・評価報告例について調査及び議論
- 農林水産省の疫学検討チームの報告書を基に、我が国における B S E の発生規模の予測について議論

第10回プリオン専門調査会会合 平成16年6月1日

- ピータースミス博士らのグループが報告したvCJDの発生予測法（逆解析法）を例に、我が国におけるvCJDのリスクについて議論。定性的及び定量的評価を組合わせた議論を行う重要性を確認
- BSEのリスクについて、牛→牛、牛→人、人→人のうち、牛→人」を優先的課題として議論を進めることを確認
- 厚生労働省及び農林水産省から、我が国のBSE対策について説明

第11回プリオン専門調査会会合 平成16年6月18日

- 新たな論文発表を踏まえ、「豚由来たん白質等の飼料利用」について再度調査審議

現在の知見では、豚及び家きんが自然状態においてBSEに感染し、BSEを伝達するという科学的根拠はない
交差汚染のリスクは、管理措置が遵守されれば十分軽減されるものと考える

等

- と畜場及び食肉検査場等の職員を招き、BSE検査及び特定危険部位の除去等について質疑応答及び議論
- 前回に引き続き、厚生労働省及び農林水産省から、我が国のBSE対策について説明。

第12回プリオン専門調査会会合 平成16年7月16日

- 我が国のBSE問題全体についてのこれまでの情報収集及び議論を踏まえた「たたき台」に基づき、日本国内のBSE対策によるvCJDのリスクについて議論。

今後も引き続き、追加すべき有効なデータ及び情報等を収集し、修正意見等を踏まえて引き続き検討